

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	LEGON Kids天満月組		
○保護者評価実施期間	2025年 4月 1日		~ 2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	2025年 4月 1日		~ 2026年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 5日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から、SSTを意識した活動をしている。 ・LINEを使って職員や保護者様と身近に連絡を取ることができ、児童の情報をすぐに確認することができる。 ・PT、STや各職員の前職等を活かして、多様な活動プログラムや関わりを提供できている点。 	<ul style="list-style-type: none"> ・その日に来る児童の課題を確認して、支援を行うようにしている。また、送迎ボードを事前に確認し、送迎者と連携が取れるよう送迎時間を把握するようにしている ・保護者のニーズを取り入れられるように、その日来る児童の情報を確認する。 ・専門職による他事業所との会議や研修が定期的に行われている。 ・日々、公園遊びなどで運動ができるようにしている。 ・専門職員によるグループ活動や、個別での関わりを意識的に行っている点。 	<ul style="list-style-type: none"> ・役割の多様化でやりとりの幅を広げる。 ・児童に提供する遊びをのぼしたい能力や実態から考えられるよう研修や勉強をし、保護者にフィードバックが送れるようLINEを活用していきたい。 ・児童指導員も自己研鑽（研修参加）によって支援力を高める。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・運動療育を主としている事業所に理学療法士がいる。 ・小学生から高校生まで幅広い年齢層の児童が利用している。（中学生が在籍していることを知って契約を結びたいという家庭があった。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動活動に理学療法士が対応することで、エビデンスに基づいた身体機能の向上を図ることができる。 ・集団内で過度に職員が介入せず、活動できるよう対応している。毎日のおやつ時の金銭管理、順番待ち、計算など。 ・年齢層を超えて楽しめる遊びや支援を提供している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士と児童の活動時間の確保。 ・異年齢交流が充実する内容の支援案を考えていく。 ・専門職員とそれ以外の職員がより細かく意見交換を行い、専門職員主導のもと各職員から支援を行うことで、より細かな支援を提供できると考えられる。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・個別フィードバックをしている。 ・保育所等訪問支援事業も行っているため、学校園との連携が取れている。 ・レクリエーション活動で児童同士が積極的にコミュニケーションを取り、協力しながら楽しむことができる活動を取り入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の活動の中で気づいたことや支援したことなどを早期にフィードバックすることで、児童の学校での困りごとなどの情報共有がしやすい。 ・学校園の様子等を知ることによって、家庭・学校園・事業所で支援内容を共有している。 ・児童一人一人の特性に合わせてレクリエーションの活動の内容を工夫している。個別のペースや興味に合わせた支援を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別フィードバックの作成時間の確保。 ・他事業所との連携をとり、支援内容を共有していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・室内の環境面。 ・ビルの4階にあるところ（ビル内に事業所が多数ある） ・活動内容やレクが小学生向けのものになってしまうことも多く、未就学児でも楽しめるような工夫が必要な場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童がいる時間に換気がしづらい。壁に穴が空いている。カーペットの張り替えをしていない。 ・同じビル内に4つの事業所がある上に、エレベーターが1台しかないため、ピーク時に移動が困難な児童が移動できないことがある。また、災害時に避難する際に階段が混雑して危険であることが予測できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の活動に影響しないタイミングでの換気時間の確保 ・部分的な補修ができないか検討。 ・避難訓練を4つの事業所でを行い、非常時の避難がスムーズにできるようにしておく。 ・コアタイムに職員を確保できる人員配置の工夫。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・他職種間での連携が不足している。 ・毎週末にレクリエーションを取りいれているが、週末に来所する児童はほぼ固定になっており、平日のみ利用の児童と週末利用の児童で活動に差が生じてしまっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝礼などで、個々に支援内容を考えるよう言われるが、ひとりの児童に対して職員みんなで同じ支援をする必要があるのではと感じる。 ・エレベーターと室内が直結であるために、児童が一人でエレベーターに乗って抜け出してしまう可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間での意見交換 ・闘争癖のある児童への合理的配慮として、室内とエレベーターの間に扉を設置する。 ・学習支援自体は主となる取り組みではないため、より学校と連携し、宿題の量や内容に対して各児童の負担にならないように調整していく必要あり。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の経験不足、支援法のマニュアルがない。 ・児発の児童が少ないこともあってか、職員に保育の知識・技術が少ない。 	<p>このような特性のある児童には、このような支援法は有効だったという過去の経験が不足しているように感じる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が関わった児童や事象はLINEに挙げるようにしていき、周りを意識して働くことを心掛ける。 ・送迎ルートの見直しや送迎スケジュールの最適化を行うことで、職員が事業所内で支援に集中できる時間を増やす。